



Discover a New World of Service

見つけよう 奉仕の新生面



会長 川村徳男 幹事 迎田 稔 クラブ奉仕 山口篤之助 職業奉仕 佐藤 忠 社会奉仕 吉野 勲 国際奉仕 新穂光一郎 青少年奉仕 藤川享胤

出席報告：会員 72 名 出席 48 名 出席率 66.67% 前回出席率 77.78% 修正出席 64 名 確定出席率 88.89%

四つのテスト

- ㊦ 真実かどうか？
- ㊧ みんなに公平か？
- ㊨ 好意と友情を深めるか？
- ㊩ みんなのためになるかどうか？



会長報告

川村徳男君

1. 松永ガバナーノミニーから、ナッシュビルで研修中の2月27日付でお便りがきております。なお来年度のテーマは「あなたが鍵です」と示されたようです。
2. ソ連のチェルネンコ書記長が死去したということで、今日の新聞にはソ連に関する情報がたくさん載っております。その中で山新の談話室に、ソ連には党官僚の特権集団が存在し、指導部の人たちは物資不足や住宅難にも全く無縁で、別荘を与えられ、特別の商店で好きな物を自由に買える。だから快適な生活を危うくする恐れのある改革には強く抵抗する。とありますが、イデオロギーは違っても人間の心情は変わらないと知って愉快でした。

た。

3. 次の例会までの行事

- (1) ロータリー関係の行事
17日の日曜にJ・Cのマージャン大会に出られる方、たくさんスマイルができるようがんばって下さい。
- (2) 一般の行事
14日は新幹線上野乗入れ、18日は彼岸入りです。

幹事報告

迎田 稔君

- 回覧→東京R.C.会報
- レート変更のお知らせ
4月1日より、現行 245 円→258 円

ゲストスピーチ

国際青年祭について



山口でございます。実は今日のスピーチの依頼を受けたのは、私ではなく夫の吉彦でしたが、彼はある若妻グループから講演の依頼をかなり前から受けておりましたので、代りに私に行くようにと言われてまして、大変重大な責任を感じながら、今日この会場にお邪魔致しました。

ロータリークラブの皆様には、日頃から何かとご支援ご協力を戴き、心から感謝致しております。

幸いなことに「アマゾン・グループ」という草の根の国際交流の活動体が昨年誕生し、鶴岡を訪れる外国人のホームステイを引き受けたり、海外にカレンダーを送ったりしてきました。そして今年は、国

ナス
山口考子さん

際青年年ということで、何か意義あるお仕事をしてみようと皆で話し合いました。その結果「国際青年祭イン庄内」という国際フェスティバルをこの豊かな自然と文化にあふれる庄内を舞台にやってみようということになったのです。まだ準備の段階で、今日のお話する事も原案の原案なのですが、この庄内地方に8日1日～5日までの5日間、日本で勉強している外国人留学生を100名位招待し、日本古来の文化と美しい人情あふれる鶴岡を世界の若者達に知ってもらおうと共に、この庄内の若者達が彼らと積極的に交流し、国際感覚を学ぶと共に、自分の住む郷里が国際的価値を十分に持ち合わせているという認識を持たらしたいと思います。都会で学ぶ外国人留学生は学生寮とか国際センターとかいう所に住んでいて、純粋な日本の家庭生活を知る機会は大変少ないと聞きました。特に長い夏休みは淋しく過すそうです。

庄内空港の建設を推進しましょう

そういう彼等を庄内に招き、各家庭にホームステイしながら、日本の伝統芸能、音楽、スポーツを通して交流し、最終日には月山の麓に国際村のキャンプを作り、彼らからもそれぞれのお国自慢の芸能、料理、民族衣裳なども披露してもらうといった内容のものでございます。既に若者達の多くの団体からも協力の声が上がっており、又、鶴岡市長さまともお話し全面的な応援を戴くことが出来ました。日本に学ぶ海外留学生は、帰国すればその国のエリートとして第一線で活躍される方達で、そうした方達に、日本の本当の姿を知らず、ワークホリックだ、エコノミックアニマルだという印象を持って帰られるのではなく、庄内の豊かな自然と人々の生活を通してふれ合う経験は、彼らの日本での研究をさらに意義あるものにするでしょうし、あるいはこれが将来の直接的国際観光に結びつくかもしれません。

ここでちょっと私の20年前のことを思い浮べますが、私が機会を得てロンドンで英語の勉強をする事になり、その経路を一番安く色々な国を見て行けるシベリア鉄道を使ってヨーロッパに出ることにしました。ソ連の旅は大変な教訓の旅でした。四六時中インツォーリストのガイドが私の行動をチェックしていました。ミール・クーポン（食券）を何かの手違いで渡されず、1週間食事が出来ませんでした。又、レーニングラードで道に迷いましたが誰も助けてくれません。法律で市民は外国人と話すのを禁止されているのです。最後に私に道を教えてくれた青年は、あやうく牢屋に引っぱられる所でした。そういうことがあって、その後のオーストリアのウィーンに着いた時は、本当に生き返った気分になりました。しかし悪いことばかりでなく、食券がもらえなかったことで、世界各国の旅人と友達になり彼らの食事を半分づつ分けてもらいました。又、その後、ドイツ、スイス、イタリア、フランス、オランダ…etcとヨーロッパを旅する時もシベリア鉄道で出会った友達を訪問し、色々な素晴らしい体験も出来ました。彼らは本当に気さくで経験が豊かで個性的です。私は今でも彼らと深い交流を重ねています。

こうして今考えてみますと、若い時にさまざまな国や人権に出会ったことは、私にとってまぎれもなく心の宝物であり、人生の支えになっております。もし訪れた国で良い体験や信頼出来る友人が得られれば、それはいつまでもその国に対する敬愛の情となり、逆に外国人であるということで恥しめられ、理解を得られなければ、いつまでもその国に対する悪感情はまぬがれません。

そして今年国際青年年にあたり、日本に住んでい

る本人も又彼らの多様な生き方を直接見、共に体験して、心の寛さを養っていかねばならないと思います。どうかロータリークラブの皆様、今年のモットー“Discover the New World of Service”の精神をもって、今若者が計画し実行しようと動き出している国際青年フェスティバルの為に心からのご支援・ご協力をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。ご静聴ありがとうございました。

国際青年祭趣意書

21世紀を目前にして私たちの周辺にも国際化の波が押し寄せて来ています。

世界の人類が平和と繁栄を求めて前進するに最も重要なことは“かみしも”を着た外交ではなく、肌と肌を接したぬくもりのある交流であると考えます。

参加・開発・平和をテーマにした国際青年年にあたり、庄内の若者と世界の若者が交流を図り、輪を広げ、少しでも国際理解に役立ち、個人の能力を高めると共に、地域や国の発展に貢献することを願い、庄内地区に、日本に留学中の世界各国の青年達を招き、ホームステイ（民宿）による交流、武道、茶道、舞踊等の体験、そして大自然を舞台に国際村を造り、音楽、踊り、スポーツ、料理…等を通じて、ふれあう、INTERNATIONAL YOUTH FESTIVAL（国際青年祭）を別紙のように発起したところであります。

つきましては、若者達の持つ夢とロマンと情熱とパワーによる草の根の国際交流実現のため格段の御力添えをいただきますようお願い申し上げます。次第であります。

昭和60年3月 日

発起人
殿

(別紙省略)

委員会報告

なし

スマイル

なし

ビジター

なし

(今週の担当者 福島三郎)